

滋賀県文化情報

『えんむすび』

北国街道サテライト会場

長浜市元浜町22-37

問合せ先・滋賀県立近代美術館

077-522-2111

●シガアートスポット

プロジェクトV.O.1
《散光／サーキュレーション》展

リニューアル整備のため長期休館に入っている滋賀県立近代美術館は、この休館の期間を利用し、県内さまざまな地域で美術館の活動を展開しています。「シガアートのスポットプロジェクト」はその一環で、若手作家を中心に紹介するとともに、地域の方々との交流、協働を目指すプロジェクトです。一回目の今回は長浜の黒壁スクエアを舞台に、街道から連想される「サーキュレーション」をテーマに、滋賀にゆかりある河野愛、薬師川千晴、度會保浩の3名の新作を中心に紹介します。歴史とガラスと現代アート、ぜひお楽しみください。

日時：2018年9月22日（土）

～10月21日（日）

10：00～17：30（会期中無休）

会場：メーン会場

長浜市大宮町7-1

森野第一ビル1F

●美の糸口

「アートにどぼん」2018

親子で「美の滋賀」の魅力を五感で体験できるアートフェスティバル「美の糸口」アートにどぼん！」を今年は歴史と文化が豊かな草津を舞台に、「アートフェスタくさつ」と連携して開催します。たくさんのご来場をお待ちしております。

日時：平成30年10月20日（土）

午前10時から午後4時まで

会場：草津宿本陣周辺（草津市）

※会場へは公共交通機関でご来場ください。

入場料：無料（ただし、一部ワークショップは参加費が必要です）



問合せ先：（公財）びわ湖芸術文化財団

地域創造部

077-523-7146

●「第16回 関西文化の日」開催

第16回 関西文化の日

今年で16回目となる関西文化の日は、関西一円的美術館・博物館・資料館等の文化施設のご協力により、11月に入館料（原則として常設展 ※通常無料施設あり）を無料とする取組みです。関西が誇る長い歴史に培われた豊かな文化に気軽に接することのできる機会となっております。この機会に、「文化の秋」「芸術の秋」を楽しんでみませんか？

日時：平成30年11月17日（土）・18日（日）他

主催：関西広域連合、関西観光本部、

関西元気文化圏推進協議会

協力：文化庁地域文化創生本部

問合せ先：関西文化の日事務局

06-4964-8844

（平日10：00～17：00）

※参加施設や実施日など、詳しい情報はホームページをご覧ください。

<https://www.kansaiunka.com/>



Made in Shiga 「身近に感じる「美」の世界

●木之本物展（きのもとほんもの展）

Media代表 植田 淳平

長浜市木之本に居る人、あるいは訪れたことのある人は、「木之本にはいったい何があるだろう?」と思う人がいらっしやるでしょう。木之本は旅人にはとくにその良さが分かりにくい場所だと言う人もいらっ

近年に実施された「暮らしアート事業」の中から地域を元気にする主な取り組みを紹介いたします。

しゃいます。そこで2月10日〜12日に企画した、木之本北国街道の魅力を再発見する木之本物展（きのもとほんもの展）をご紹介します。

普段は見る事ができない手仕事の現場などの裏側を写真で切り取り、その店舗に展示する。そして、まち巡りガイドアプリによって、まちなかのスポットごとに「なぜ?」からはじまる問いかけをし、写真を

見ながら店舗のことや木之本の歴史を伝えていくことを狙いとしました。木之本のまちを個々の自由に楽しむことを目的としたアプリの開発ができたことで、情報の発信力向上に寄与でき、まちの魅力を知ってもらうことができたと思います。

また、長浜ロー

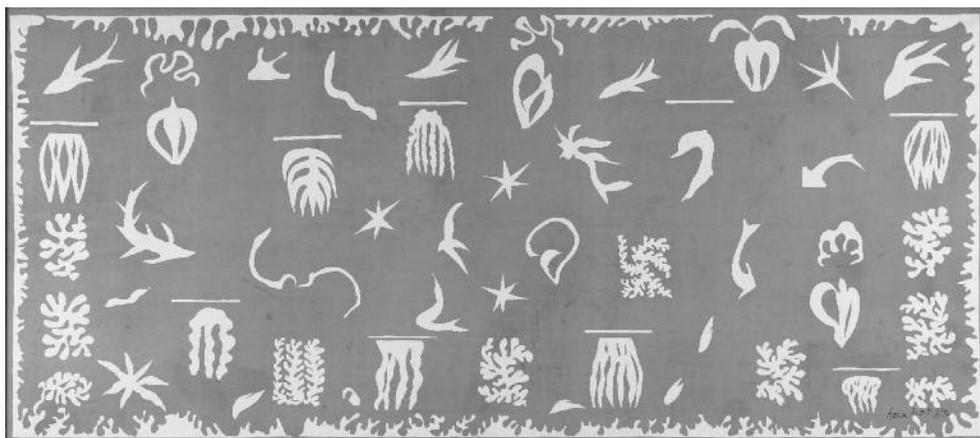
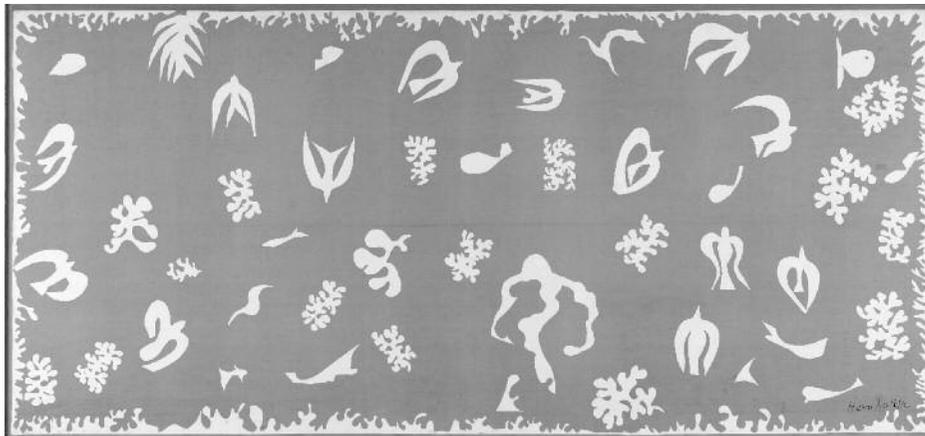


カルフォトや地元のカメラ愛好家とタッグを組んで事業をできたことで、地元のカメラ愛好家のネットワークの構築や、地元の写真愛好家がまちを舞台に写真を楽しむ姿、写真展の情報がSNS等で拡散されることで、来訪者の獲得につながることができました。

さらに商店街をギャラリーにしたことで、木之本には「つるやばん」や「富田酒造」しか有名なものがないんじゃないかと思っていた人たちに、新たなまちの魅力を知ってもらうことができました。商店街をギャラリーと見立てて、まちを回遊する仕組みは、普段静かな通りに人が行き来し、店主と会話が生まれて、お買い物をするといった流れを生じます。ここでの主役は地元の人々（ローカルヒーロー）であり、地元の写真でした。

アートのみかた

— 滋賀県立近代美術館所蔵作品をもとに —



アンリ・マティス 《オセアニア 空》(上)と《オセアニア 海》(下) 滋賀県立近代美術館所蔵

●切り開いた表現の可能性

滋賀県立近代美術館学芸員 渡辺 亜由美

鳥や魚、海月に水草、星とヒトデ……。この作品は、フランスの作家、アンリ・マティス（1869～1954）が制作した《オセアニア 空》と《オセアニア 海》です。本作は麻とシルクスクリーンによる壁掛けで、原型は「切り紙絵」でつくられました。切り紙絵は、ハサミで型取った色紙を組み合わせ、画面を構成する手法です。マティスは70歳を過ぎてから本格的にこの手法に取り組み、シンプルな色と形のバランスを通じて豊かな空間を表現しました。

《オセアニア 空》は、フォルムの曲線が響き合い、生き物達が空間をたゆたうような緩やかな画面です。《オセアニア 海》では、モチーフが縁に沿って併置され、水平方向の短い線の効果とともにリズムカルな印象を与えます。ハサミでデッサンした白く美しい線がベージュの背景に引き立ちます。熟達した造形センスが遺憾なく発揮され、新しい技法を楽しむ子どものような無邪気さをも感じさせる逸品です。

オペラ日和

● プラハ国立劇場オペラ

《フィガロの結婚》

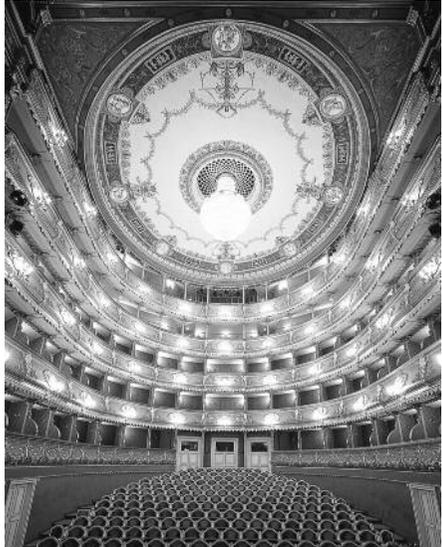
びわ湖ホール事業部 チーフプロデューサー
館脇 昭

来年1月にびわ湖ホール大ホールで上演されるこのオペラは、フランスのボーマルシェが貴族を痛烈に風刺した戯曲「狂おしき一日（ラ・フォル・ジュルネ）あるいはフィガロの結婚」に当時30歳のモーツァルトが作曲し、ウィーンで1786年5月に初演されました。オペラでは原作の貴族批判は薄まっていたものの、内容を良くしないとすると動きもあり、上演は早々に打ち切られました。自信を持って臨んだモーツァルトは失意のどん底へ突き落とされます



が、同年12月にプラハの劇場で行われた公演は空前の大ヒットとなりました。プラハに招かれたモーツァルトは、街中が《フィガロの結婚》の話であふれ、人々の口ずさむ歌も口笛もすべてフィガロ一色という熱狂ぶりに驚き、感激の書簡を残しています。モーツァルト自身もこのオペラを指揮し、プラハの聴衆の興奮は頂点に達しました。

この成功を受けて劇場はモーツァルトに新たなオペラの作曲を依頼、あの名作《ドン・ジョヴァンニ》が生まれました。プラハ国立劇場「スタヴォフスケ劇場」は、モーツァルトの指揮でこのオペラを初演した劇場としても有名です。今回上演される《フィガロの結婚》は、この歴史ある劇場が今年2月に新作制作したばかりの作品で、シンブルな中にも伝統と新しさを両立させた魅力あふれる公演です。モーツァルトと所縁が深く、モーツァルトに愛され、モーツァルトを愛してきた劇場の引越した公演、どうぞお楽しみに！



ヨーロッパの中でも、最も美しく歴史的な劇場建築のひとつに数えられ、モーツァルトと縁が深いことから「モーツァルト劇場」とも呼ばれています。映画「アマデウス」のオペラシーンはこの劇場で撮影されました

● オペラの楽しみ方（番外編）

「四大テノール」

オペラの楽しみ方の中でテノール歌手の声の魅力は絶大です。その中で近年、注目を集めているのが、圧倒的な歌唱力を誇る「びわ湖ホール四大テノール」。2010年に結成された実力とスター性を併せ持ったグループです。クラシックの枠を超えた新しい上質のエンターテインメントが大人気で、全国各地の公演のほか、テレビ等でも活躍中です。文句なしにお楽しみいただけるテノールの声でオペラの魅力に触れてみませんか。
来年1月6日（日）びわ湖ホール大ホール
料金3000円

プラハ国立劇場オペラ 《フィガロの結婚》

日時 2019年1月13日(日) 15:00 開演
会場 びわ湖ホール大ホール
指揮 エンリコ・ドヴィコ
演出 マグダレーナ・シュヴェツォヴァー
管弦楽・合唱
プラハ国立劇場管弦楽団、合唱団
チケット 19,000円(S席)、16,000円(A席)
好評発売中

お問い合わせは
びわ湖ホールチケットセンター
077-523-7136
(10時～19時、火曜日休館)